

主催：日本ソルフェージュ研究協議会

# 第11回 研究発表会

日時：2019年 **11月3日** (日)

14:00 開演 (13:30 開場)

会場：東京藝術大学 5-109 大講義室



## 古永家 健太 Kenta KONAGAYA

4歳より桐朋学園大学附属子供のための音楽教室にてピアノとソルフェージュを始める。甲南学園を経て、東京音楽大学器楽専攻ピアノ演奏家コース卒業。同大学院音楽教育専攻ソルフェージュ研究領域修士課程修了。在学中、ソルフェージュ研究部会所属ティーチングアシスタントを務める。論文作成を荒尾岳児、日野原秀彦、和声学と課題作成を糀場富美子、楽曲分析を福土則夫の各氏に、ピアノを佐藤俊氏に師事。現在、東京音楽大学付属音楽教室非常勤助手。

## ◆全音音階を用いたソルフェージュの試み

—ドビュッシーのピアノソロ作品を中心として—

19世紀後半以降の音楽では、作曲家一人一人における音組織の扱いの相違が顕著となり、長調・短調に慣れ親しんだ耳では、それらから離れた音組織に基づく音楽の響きを想像し、把握することは容易ではない。そのため、ソルフェージュ教育は重要な役割を担うと考える。今回の発表では全音音階に着目し、全音階も活用した作曲家であるドビュッシー Claude Achille Debussy (1862-1918) の3曲のピアノソロ作品(《帆》、《雪が踊っている》、《葉末を渡る鐘》)の、全音階が使用されている部分を中心として行った楽曲分析、並びにその結果をもとに作成した課題を提案する。



## 川崎 真由子 Mayuko KAWASAKI

国立音楽大学、同大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。作曲を菊地幸夫、音楽理論を市川景之、小原美子、丸山和範、山口博史の各氏に師事。奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門、現音作曲新人賞受賞など作曲活動の他、『フーガ書法パリ音楽院の方式による』(山口博史著/音楽之友社)、『必ず役立つ吹奏楽ハンドブック 和声編』(ヤマハ・ミュージックメディア)など、音楽理論書製作にも携わる。尚美学園大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。

## ◆《クーブランの墓》第2曲《フーガ》を用いたソルフェージュ教育

—対位法教育と聴取の検証—

音楽を聴くとき、学生は使われている楽器や、旋律と伴奏形に注目していることが多いと感じる。また、ソルフェージュの聴覚訓練として一般的な聴音は、正確な音程とリズムの聴取に偏りやすい。しかし音楽は多くの要素が絡み合って成り立っており、楽曲によっては対位法も重要な要素の一つである。本研究ではラヴェル作曲《クーブランの墓》より《フーガ》を用いて、声部への耳を開くことを目的に、正確な音程とリズム、旋律と伴奏とは異なる視点からの音楽聴取のための聴覚訓練を考察し、実際に音楽大学の対位法の授業で行った検証結果を挙げる。

## ▶入場料無料

なお、正会員以外の方は以下の経費負担をお願い致します。

一般 1,000 円、学生 500 円、賛助会員(個人) 500 円

## ▶問い合わせ先：

日本ソルフェージュ研究協議会事務局

Tel. 090-5566-8567 (留守番電話)

E-mail : ni-sol-ken@island.dti.ne.jp

http://www.ni-sol-ken.com/index.html

Homepage



facebook

